

持明院家書目録

六

和

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 二 | 和 |
| | | | 三 | 書 |
| | | | 四 | 門 |
| | | | 五 | |
| | | | 六 | |
| 一 | 四 | 三 | 函 | 類 |
| 冊 | 架 | 冊 | 號 | |

| | | | |
|------|---|---|---|
| 庫文閣内 | | | |
| 五 | 三 | 和 | |
| 四 | 四 | 書 | |
| 函 | 五 | | |
| 一 | 四 | | |
| 七 | 冊 | 號 | 類 |
| 架 | | | |

| | |
|------|----------|
| 内閣文庫 | |
| 番號 | 和 23454 |
| 冊數 | 10 (6) |
| 函號 | 154 354 |



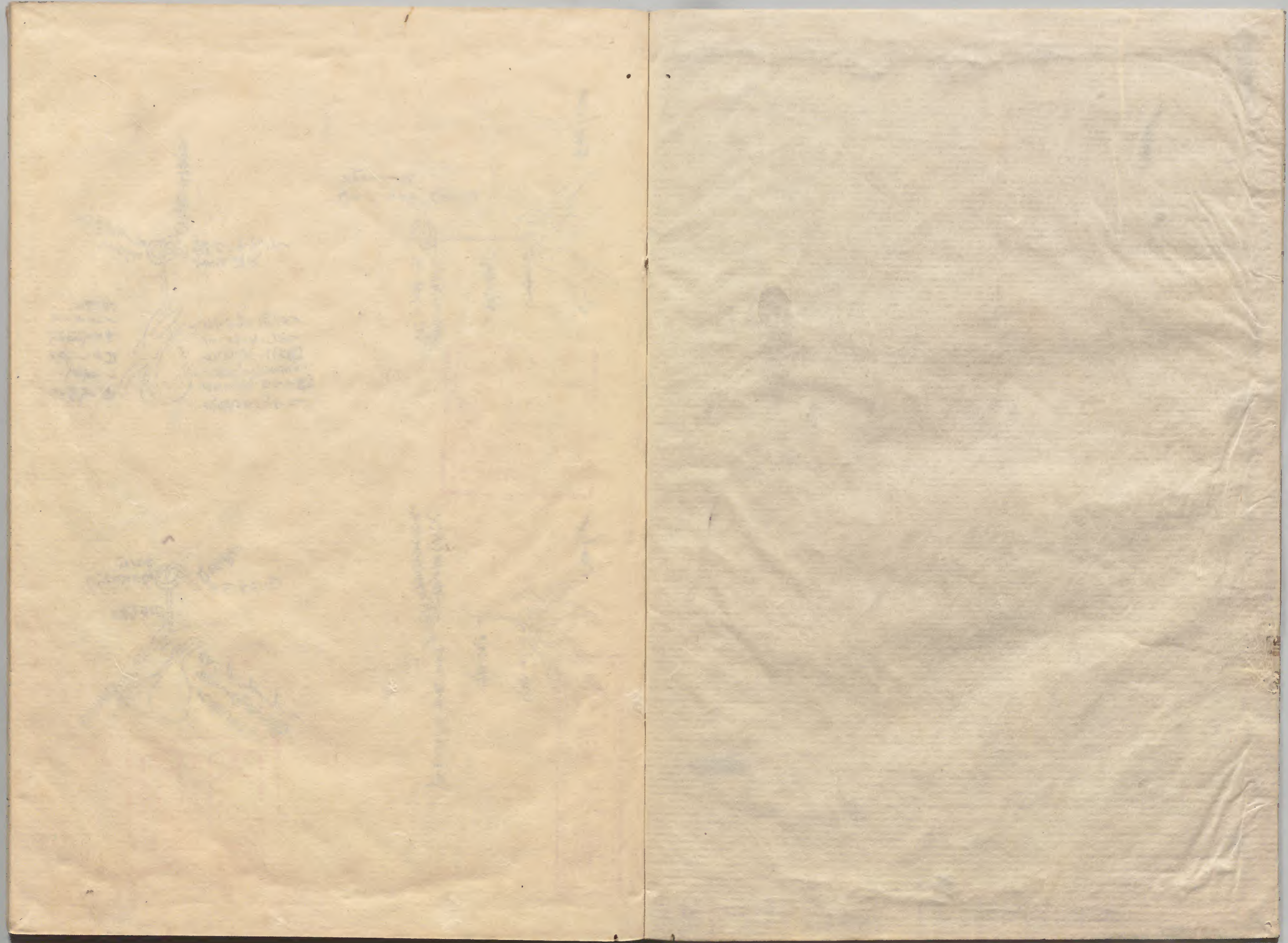
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale

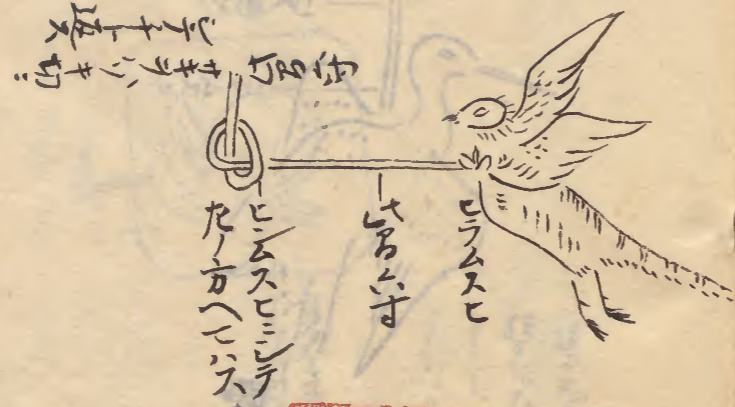


© Kodak, 2007 TM: Kodak

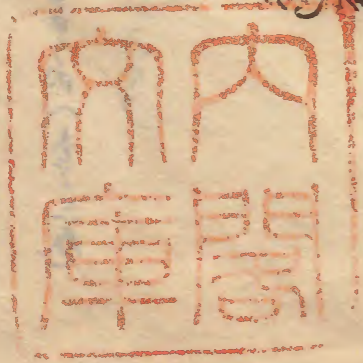
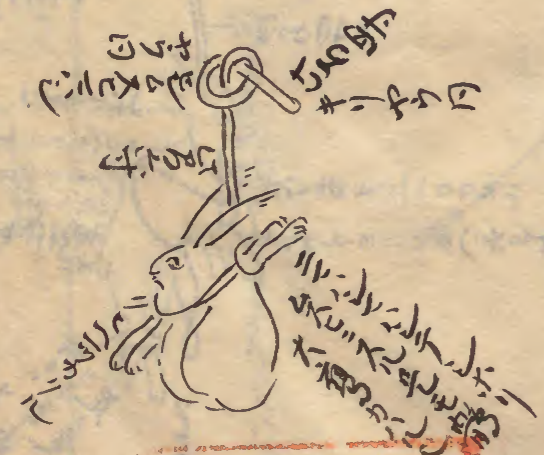
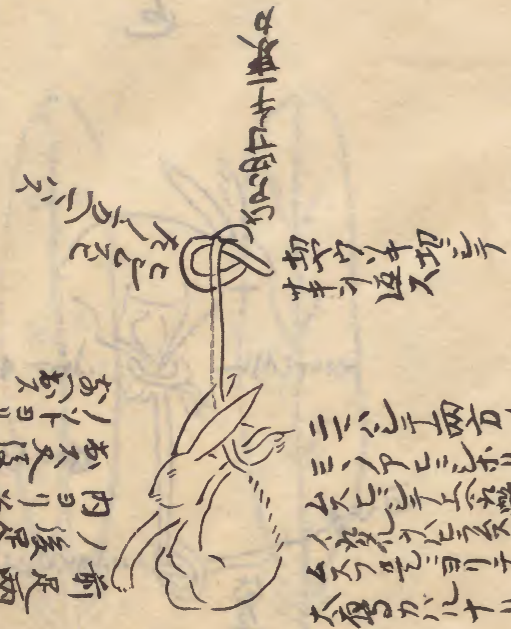
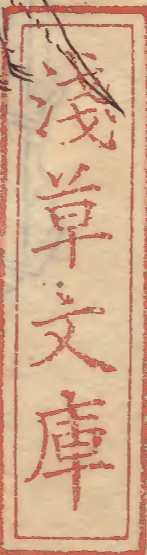


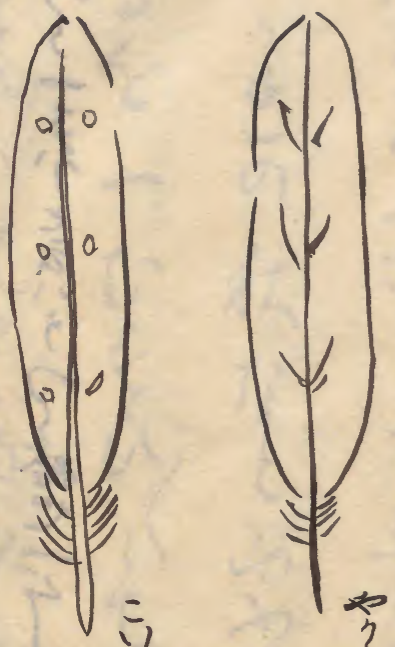


オニ鳥

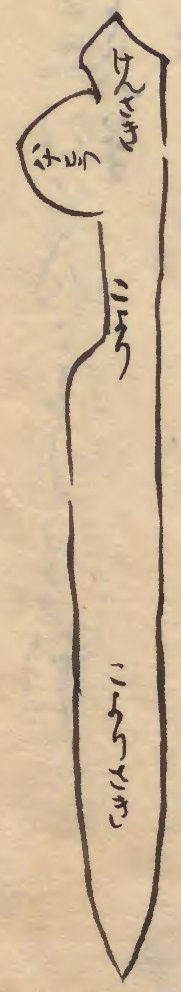


オニ鳥





ニシキニシキ
やうい尾と云

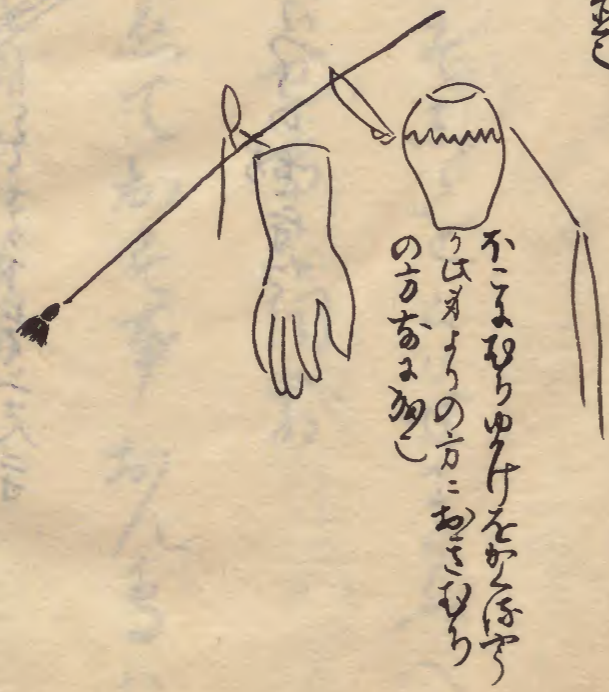


何れかの切やまよりて尺三寸



ウサギ

草を臺
すゆやま

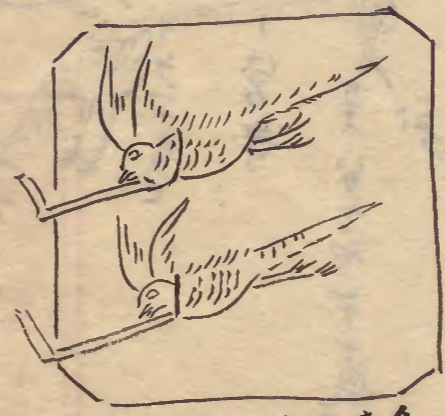


不てよむりゆけをわす
うはあまのうかおむり
のうあまゆ

鳥を不てよむりゆけをわす
うはあまのうかおむり
のうあまゆ

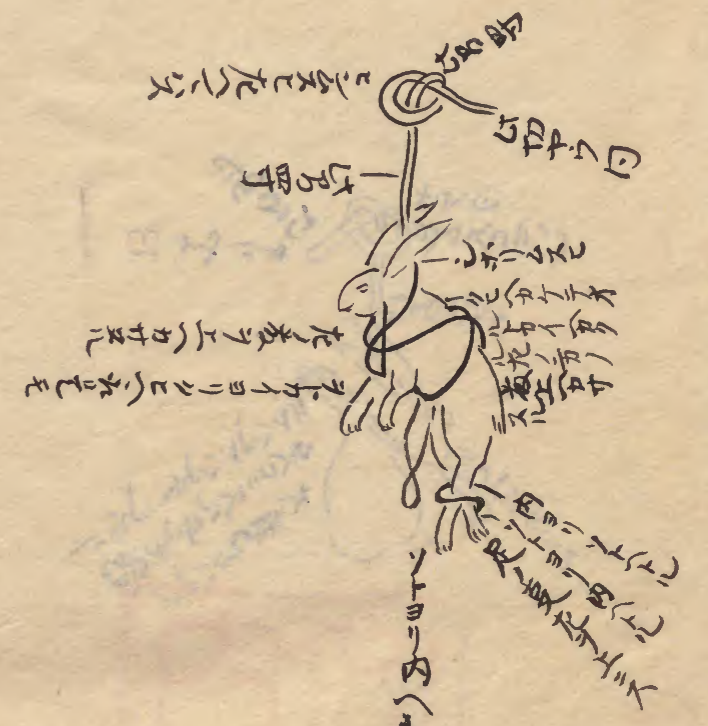
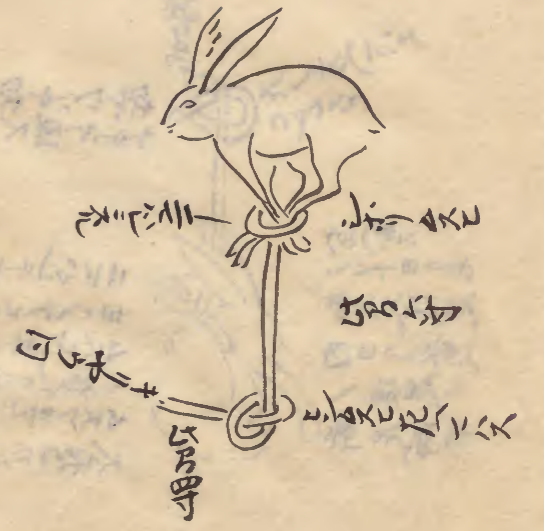


鷺



鳥がイニ
変名ウナリ
但春ハ
ウサギ
分ニ
ツケテ
方(老)ト

兎也



ソトヨリ内(老)ニ卷

一うさじとらゆる事 昔是と一ツよねうーる是
を一ツことりてあまへひりそり 巻くらをせらへ
してせなるとかせハすりらこ

一山よのけ極去ハ丸散をハ散とらうてうら
但何と丸散う者とら作

一醫の道具此す法し事 何とら子のすんをて用
不こ計ハうらうり者とら作

一志きも此事うりり物ありハ一菓くせよと
うくはや

一白而此事大キ一乃めてるけ志ろくそり

のそよかくまんありハ一は内一而もあはうり
物よたらうハ一

一うんれくいせ此事かうすんれたの方此くこ

さきのみとこらとらん一経丸くかうハ一
上へ毛をとらせて並丸をハかくす人よおとてハ

例式此ことく厚のくみをたのきむ一して
さいよをあらう之厚よくりせとらうぬハあや

考よそをりらぬとら作厚の田とらうか

方也あや

一 鳥さきれくせの事うけういとわくし

とハツ寸何とともあま小鶴れ大鳥とさうし

とハツ一りとふく

一 雲ハ鶴をうけぬけよとさむしをいもり

子けいんさむし

一 鶴んさむし時かきうりのゆらニまうし

くいむとひよはちしうまうしなとよん

とさむし

一 雲雀なとを萩なとよてうく事まこみ

とさむし

一 鶴一とハとさむしよりしきまも世ふてハおゆりよ

とさむし

一 鳥山なまの助友よりおを萩極まうし

鶴のいんさむし二さか美一さかハ六二さかハ七

つねんさこて集くるとも作作ハ矢の作などの作

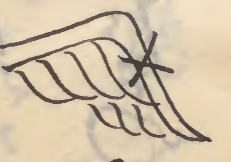
りこれをつけてかうしのをを長一てとさ

みらやとさむし

一 本式よるをむむの萩萩りーそそ

一 鶴のまなるといあききり鶴のねうらそふふり者
もなともまはめんをハねうらそうじり
めは

しんまき
ふたつ



羽のたをうら

一 ねうの甘いふよふ及只の時ハ鶴のうらをうら
一 鶴を人よこさるる大鶴鶴なくむけてむ
一 ちをうらてよふうらうのうらと上うてむらを

さうてよらうのうらをうらてむらを
一 下はねいといふうら下ハむらとまてよ
ねのうらと下うてむらとよようら
わて鶴とあつて

一人よらうの可きうらこの方此羽をうら上て
さて身あの方此羽をうらあけてうらを
うらむらを尾此下ハうら尾をうらあけて
うらや但鶴うらをハ人此あやよ
うら

一人よりて身寄より色りさあけんりて
ささるやいしきもくもくすしとら作

一書を架よつかく事 大書七をり 鶴を
五くさりさてをくさきをさふハ川をーて
身寄の架の方よをくさきとさむらうな式に
とさきを下へさげあつかくハ小書をさるよ
つかくしとら作

一二羽書をつかくハあ方此書此をを身寄
ささるやいしきもくもくすしとら作

一冊ありハ身寄よつかく事

一書を人ハ後事先三指の礼あり貴人
ながら是をさひとさくゆひのまへ入てさ
れとーして後回掌の人をかきハたかくゆひ
れもさくけりて後下様の人たさくさくゆひ
よりささりて後是をさ指の礼とさ秘事
わりの如し

一書後事先右此ひさをさく後ハ後次書
此事 一書ハ餅袋をさるうらを右のひみて

とりて解袋の口を我あかあへりて後あかをまく

諸君のいさむくしらを木のくまよりとりて我あかり
あへまりしくゆし

又云あるせりは解袋は口の紐我あかあ

へりてこりくを急袋の口あかにあかて急袋の

口をとりて志あかりあかと後人のあへむけあかすこ

二番よむぢとぬきてもかきりくいあしてこり

くと我あかあへりてとすおをか次人の方へ

むけて後三番よとくととりて木のは人へ

ゆひとくゆくゆひ二つよととを一卷まき

て考人ゆひのあかを子の内よとりゆひ

をを下よひりけて後下指人かきゆひ

をのりてあきれ下よりさりて後上下

これをかか後ねて急袋ゆひゆけゆりて

て諸君や先ゆけをハさすへりかを人ゆ

けをさして諸君ゆりとも後よ急袋を

ゆけをぬきまへり

一巻後次身先急袋二番ゆり三番よゆり

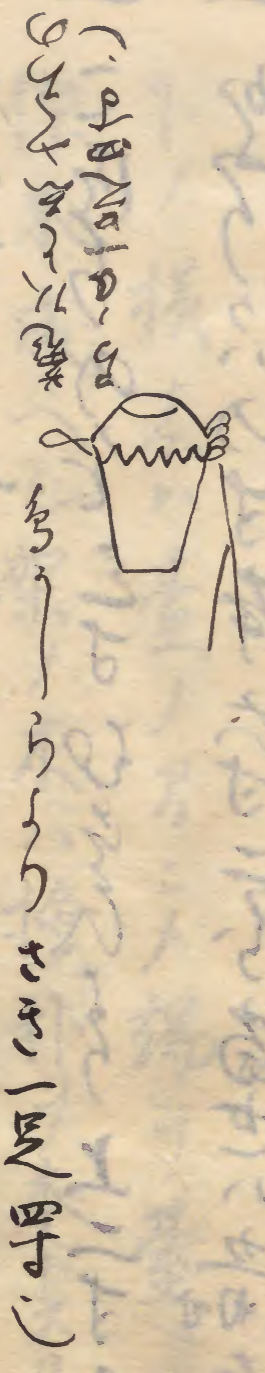
一 五番より六番はゆるけく移し
一 鷹を捨てて我志の方へちと立寄りちまう
まうりて流人のあつてををたよめゆひ
よまといいて下へけてゆひよまをむこはら
れをををくさきとをいつまうりてこゆひれあひ
んさむし
一 架よ鷹を捨るきて並河ひらゆるけく
力志の方よ並志袋を計外の西よ並て
者くくくくす

一 是をのきやの此事鷹丸足形の中
すを中よめてぬれあかとあくは鷹足
三すこなりは是をれけんさきを長く切ぬ
けんがさはあくはあかを中をこよりさき
よせてあくはこよりさきのあかを中をこ
あくは又鷹の足かそけきかえなひらをけん
さきのあかをこよりさきまうりてこよりのあか
を中をこよりさきよせてあくはけんさきの
あかの中をこよりのあか

- 一 架きぬし云ふこしきしとハいんす布をし
- 一 むらす小鷹大鷹何もこじん但大鷹なまハ
三尺二寸許台とら作
- 一 大ら一尺のかさともやりあとも何も合うす
故なり其あともともろりうすのさういせぬ
ういとら作本ハ一枚三人若是ハあまり長さ
尺六のこすすよとらてすもこ
- 一 魚をいさい口若ここしとら
- 一 こし鷹北田との事本ハい^かとらあはる

とらとらくは長さ八寸上二尺^寸二ふせよのとりハ
六寸台とら作

- 一 鷹を人よおとやうくいせをよ^してちの
うしんを人のま^してあまこ
- 一 点袋孔苞^しらきう^しらのすめは



- 一 点袋のうけをう^しくのす尺ハ^し目^しを^しら
を^し

- 一 是をの卒のすけんさきよりこよりさきま
- 一 一尺二寸當せハ一尺二分ふすきとき
- 一 こはらのをこよむさきより上二寸下一寸
- 一 かうりういの寸卒六寸二分當せハ五寸母者
- 一 状なしとま舊とありとありハ舊一羽なとく

物具法量

- 一 架ノ高サ四尺一寸切口三寸架ノ長サ七尺八寸
- 一 柱ヨリ外ニ六寸二分宛一ハ臺ノ高サ五寸六分
- 一 面ノ廣サ六寸六分西ノ支ノ端ヲトスへ長サ
- 一 二尺一寸二分カフキニ坪金四柱ニ宛打へこ
- 一 下ノ横木ハ臺ノ片ニメ端ヲ臺ニ指留ルこ
- 一 作木成へこ架ノ木ハ捨朴ヲ本トスル
- 一 二架ノ長サ一丈二尺坪金ハ五こ 繫舊事
- 一 大舊ヲハ本木ノ方先舊ハ末ノ方ニ可繫但こ

末打坪金四ハ大鷹ヲ末ニテ繫同鷹ナラハ
糸物ヲ末ニ可繫

- 一 架布淺黄又ハカラノ紋アルモノナトヲ用何
物ニアル例式スリヲハツヒ菊團ヲ黒革ニテ
付ヘキニ架布ノ長リニ尺ニ寸ニ分上ハ矢ノ比
ヲ縫リクニテ架ニ結付シ紋ヲ付テ深ナト云
人アリ實ハ唐物ヲ用シハ紋ヲ付ル事不知
一 大鷹ノ大絛ノ長サ六尺六寸五分ケ革ニ
方ニ寸五分宛ナリ

一 兎鷹ノ大絛ノ長サ五尺五寸五分ケ革兩方

ハニ寸五分宛

一 鷄ノ大絛四尺八寸ケ革一寸八分宛

一 陈ニテカリ架結事鷹ノ後シ敵ノ方ヘ公ケ又

ヤウニ結シ陈所ノ方ニ結ヘキ

一 鷄ハサム竹上六鷄ノ方ヲソキ切シトノ方

ハ鷄ノ右ノ方ナレヘ

一 鞭ノ長サ大鷹ハ二尺五寸又ハ二尺八寸

鷄ハ三尺一寸式三尺二寸

二尺寸兎鷹ハ二尺寸

鞭コソクルヲ
カタカヘリヨリ
コソクルニ
大サ同オ

一 足緒ノ事 大鷹ハ六寸六分七一 兄鷹ハ五寸五分六一

一 鷓ハ五寸五分 又云花平ヨリ外葉よりけり大鷹ハ八寸二分兄鷹ハ七寸二分鷓ハ六寸二分花平ハ鷹ヨリ也但四寸法ヨリハ短スヘシ

一 ぬりぬりノ事 かくと四寸八分ひりと二寸七分

一 魚ノの廣さ四分に但大方よりしてよろへ

一 鷹とつなくね大鷹ハ七むと小鷹ハ五寸五分

一 二むと小鷹

一 狩杖ノ長サ 鷹生ハ我こと曰犬飼ハ目の

一 とゆりよりへて切れり

一 足緒ノ事 大鷹ハ二寸二分 兄鷹ハ二寸一分

一 鷓ハ一寸八分なり

一 鳥此山結ノ事 雄ハ五寸むと小鷹ハ四寸五分

一 八分雌ハ四寸むと小鷹ハ四寸五分

一 つけへし 鷓ハおんれむと小鷹ハ四寸五分

一 上二寸五分雌ハ五寸 結目より上二寸

一 鷓ハ五寸五分 結目より上二寸

一 鷓ハ五寸五分 結目より上二寸

一 鷓ハ五寸五分 結目より上二寸

何れ一丈五寸と云ふ物なり 有りより下を三尺五寸なり
一作の切やハヤリと付本此と云切紙よりして
くさきに結しやくさのしを結し之に付程多
かりぬくより鶴とハ末と云むこ下此有り
ひふやうはんさむこはぬくいなる鶴こよりありを
とりてんさむこ

一 餅袋のぬきと守六分と同

一 木のらり縄一尺五寸なり

一 鍬此よりこつら此と云ふと大鷹ハ二寸二分見鷹ハ

二寸八分 鶴ハ二寸二分

一 大鷹ノ多屋作事 横五尺二寸 笠六尺二寸

高サ六尺五寸 多屋之同事 之小鷹ハ

次才又緒屋

一 因結此事 縮まて色より此縄を色くくじ

縮ハかの方と結合多の前後あてりし

あり結ふ屋 結目ハいつても男結さる

露ハ七寸上の緒と云へ 余三寸五寸

そかの高ハ何れ六寸二分より 厚ハ八回を

ッけを丸とさうすたのひひを毛下か
あけて飼くやうてかると引すへしより
不見極まをさす

一 虎丸をぬす寸してたの頬をたのかをむき
ういて又かき極まをさす

一 鷹の丸をとりくせさすハ田をくく

一 ひねりのとが丸二寸

一 鈴板鈴物とを云へ一寸五分廣サ一寸

一 田物山結ヲカケ山ノ毛を田結ヲカリル事アリ

一 子細ハ山田ナト鷹下タニ見テトリタニ

一 時ハ山結ヲカリルニ平逸物ノ如シ又山ノ毛

一 自然里廻りナトニテ時田結指縄ヲカリルニ心する

一 雲雀ハサム事鶴ノ口又秋ハサム事

一 飼袋ノ袋東大層ノ毛ハ丸丸ハ

一 非菟ハ叶結

一 十八此秘変と云ハ

一 虎んハ丸毛とハ鼻毛あひぬ毛ハきくくそにくけり

一 爪つけハ鼻穴さうさうのこころと云つゝあかこころ

一が少んといはけりいの下いをよと云はけりいの下と云れと云ふことありと推察するなり

一かあむんといはけりいと云ふなり

一かあむんといはけりいひやうをよと云はけりいといふなり

一かあむんといはけりい又の早のといふことあり

一てせん胆の粒をひてんをよと云ふなりて尾の上をよと云ふ

一えんういのくまはけりいと云ふことあり

一うちをよ女大牙と云はけりいといふことあり

一ちりやんにつめのことと云はけりいといふことあり

一うくふいハ執馬と云はけりい是二うあひいむる事

一いあむんといはけりいと云ふことあり

一うき人の毛といは額ヒタイノモをこてんをよ心むつけてタケつ子よみ

一てことあり

一子つけれ毛と云はあけをれ上の毛こひよまおけりい

一うち毛けりいひきあむんおけりいと云ふことあり

一よけりい

一こき毛と云はけりいよあけ毛こめまと云ふことあり

一あけりいけりい

一ひをいの毛と云はけりいきんめてをけりい

一 一とあるは此毛と云はすけ之又ハらんとも云お解る
 一 爲一は毛はいより毛をくれくみん可ハ事ありと
 一 七世よりく毛を細く一日つらとせ
 一 一とせととり此毛と云はくむら此毛こあやとめめ
 一 とよふあり
 一 一とせととり毛と云はくむら此毛こあやとめめ
 一 けせととり毛をけてうらうらありハ七日
 一 うらうら毛と云はくむら此毛こあやとめめ

毛と云はくむらあり

十八世秘事といはれり

一 大下ノ事 一ヤ香 一 沉 一 天南草 一 木香 一 巴豆 一 白粉

ハ六末ヲ調合ス

一 一モ、ヲヒキタ茶 一 黄菊根 一 アラヒトリ 一 ハニナ 一 ハニホリ

梅テノ酢ニテスリ合分

一 スカシ茶事 一 アシケ馬ノ尻 一 大黄 一 茯苓 一 事、ヨリテ

調合ス

一 一タチナワラクイタ茶 一 ハニクリノ中ナルカニヲ粉ニメカウヘ

一 小壺ノ水 ウラニホシウチコミタル中ノ水アヒケテ
足アトノ水

一 取トル水 ミチヨリ内ノ男ノ氣ノヲヨリタル時分ノ
便水ニアカツキノヤトル

一 七トキタムル茶 青茶ワノ粉 石見川 梅下ノ酢

同茶 青茶ワノ粉 リウコ鉄ノ粉酢ニテ

同秘茶 カラニシキノクヨキ 青茶ワノ粉 石見川

梅下ノ酢ニテ

一 エラオシカ子タル茶 谷ノカニヲヒシキカウヘシ

同茶 セリニ女ノチヲシホリおし谷カニ 右ニホリ飼ニ

大壺ハ男子ヲウミタラ 兎齋ハ女子ヲ実タル

一 山忘ノ事 沉ノカヤシシヤ番カニノアカ 白粉各ホカ

ソメカモノ水ニテカウヘシ又トツキノ水トモ云

一 モミス、メノ事 人多 車草ニホリおシテ口へ入モミナ

ヤスタツ血ニ エウトニトノ時 蘘香至宝其カイシル

カラスモ同事ニ

一 モノニテホタル所ハシアカニタル付茶 麝香 解毒

一 鐵スルメノ血ニテ付シ

一 クモテラ合又物ニテ打タル時氣茶 伏竜テ 百霜中

ハイ 以ニ来テ可飼シ

一 八茶 人多 耳中 木香 沉麝香 大黃

茶師中 五八中 以ハ未カイヤウモ口傳

一 ハナケノ茶 細辛 昆ウ 何レナリトモ吉

一 毒ニアテラシタル茶 茶師中 ヒルムシロカウツヤ

血留中 加減 麝香 至宝ノ房ヲ 便水 氣ツケノタメニ 時ヨシ

人ノ血ヲ系リ入時モ五

一 以茶味時ニヨリハカラウヘシ

一 エケカイノ茶 竹ノ虫クソ トラス ラウ 赤小豆 ハイ

クチナシ 人多 榎木ノ水 レイナラス 万病ニヨシトウ

ケニモヨシ

一 桑ノ水ハ中風ニ可用

一 トウケ大夏ナレ時鉄ニ炎ヲスレハ水ノ出テ吾水ニテ

ノへ可飼

一 羽打タル茶 菴コフ ニラノ根 水ノ中ニ生タル竹

桑ノ木 カラスノ木 弁ノ中ニ生タルスケノ根 大ナラ根

ヒシロウシ カミノアカ

一 是ヲヨリセシテエニスリテ可飼

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

一 白ををつる一 扱一 扱一 秘をさるるく 白ハ驚見驚

驚よまをつとふといふとハそゆはれ一 日本此

驚よまハれ一 志あるハ何とかがうらいらいり 扱ハ

驚れり 但白キ取きて 白の扱なりをさるるも

危一 ときぬらう一 ありりハ日本の驚よま

多し 白ハ定りて 白ハ七ヶ所を口傳一 目多

くく一 多驚飼の巣驚のこく一 一毛も

白くやんをうらぬ一 らんひとあり一 をか

けのま一 一と一 一とつああう一 のつめ一 一

一羽をらちるる一は一足のやう鶴のあゝのまゝ
んきこふりあてちる一羽うら練貫のこま
ちるくまうくとすまこ一らんひそをれもちる
へ一ひし七ヶあく白ハ菓齋よハあうらうす
白をつあうり才一のたすこ例式つあうま
してまう一をらちいま例式申かとう
むをいあてし一筋川海うわあまなるや
つかく一申秘^秘よ一をらあてつあまら
一筋をたのまうまけてこわまは緒てをくこ

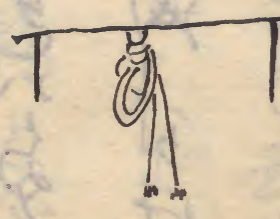
大あり秘変こ 細くまつかさてそくへうす
大徳城ハ白くすまこ 又は案をとすま
足草をも白あや一のいうまく草あのみ
ましま(ま)

Handwritten bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters "秘" and "草".

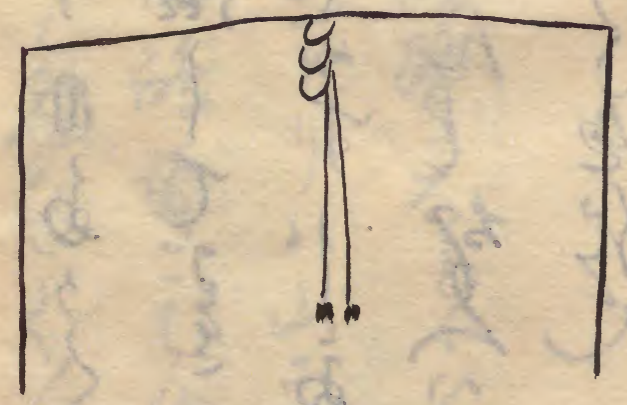
一凶事の時は警を放つ極是は道二三番に
 大事内にて作りぬ先架紙幕下の側使点
 う物取は後こふこまの巾をは警のたの方へ
 なる極は後より餅袋よりハくら点を内を
 て紙あてきのうを切てます(大徳は也)
 さてぬかきこの紙巾を二番のうてききし
 又むをもひきてらつる(そのたの尾さきと
 一文字よりしてこふぬりのあしを切てんれ
 てもさきむをもくふす)一たす(只大方の紙

此人よりハ傳へくちる(つふきや)例式
 心を以て結ぶ(ハと紙まよしてをくぬり
 ちむきを給ううつをこりりたりも
 と切てつふぬ事ぬり

旅通時



結



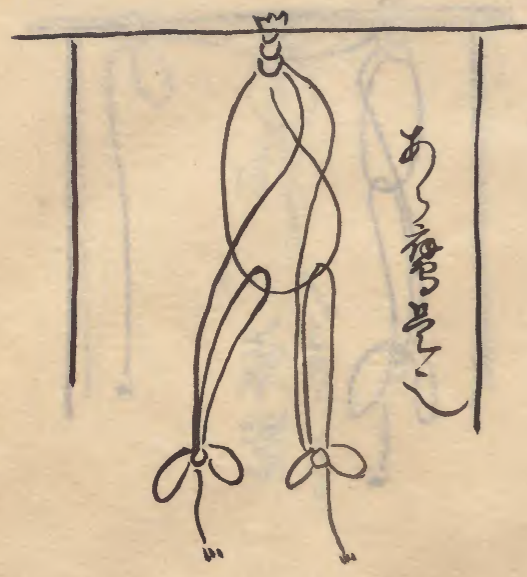
一 旅して警成つふく事 目あうくして立可
かあせはもう成削式三緒してこき二筋を
引と細りけてむとひとあす一あをくこ
そのかきこくち宿をあらんとあつもの
こしこまかまつあきておく魚記也

一 鷹を二つあするを 坂東よは是リウウマねト云
お務り出すこしクハせ秘事一の層れりハせ
右の方 飼折合をきハ一よあらんこさきハ
右よくらせあるこそ雅とへく次何事と

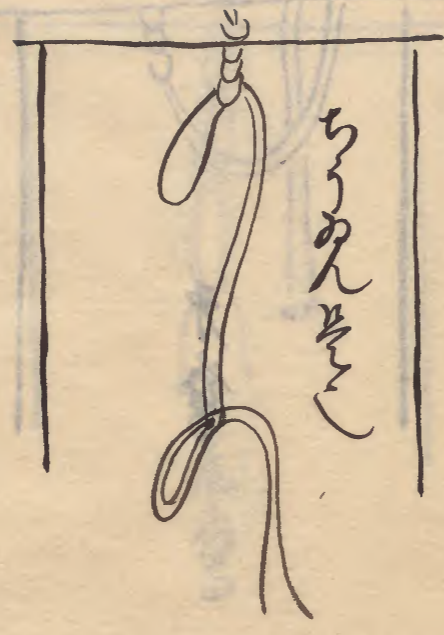
物成り一と云へりく次と

一 千鳥のくハせ秘事一 花の羽うら成飼三の羽
ぶ一のあ成飼春の雉のうん鳥れくハせれ
こしこまかまつあきておく魚記也
飼へまへ

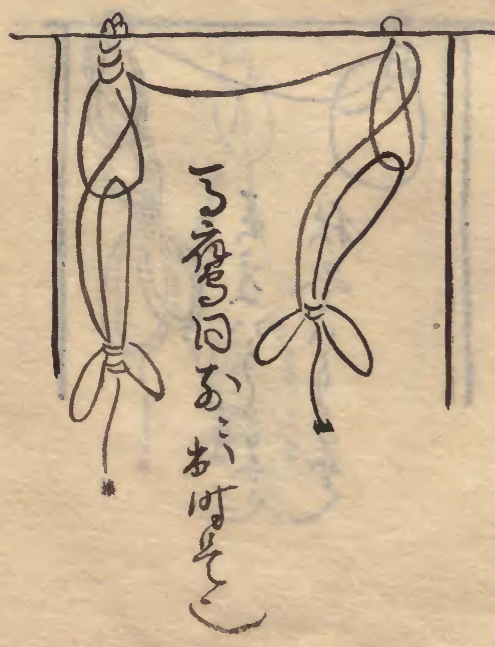
一 らん鳥と云ハ層鴨鶴鴒路をく人れんは
何れハ大よあまうりこラントリハ山あてもまこ
層と鴨とをハ田物ト云鶴鴒鴒も外のをハ
まなもをらんそうと云こまをく人さうを



あしづき



ちりめん



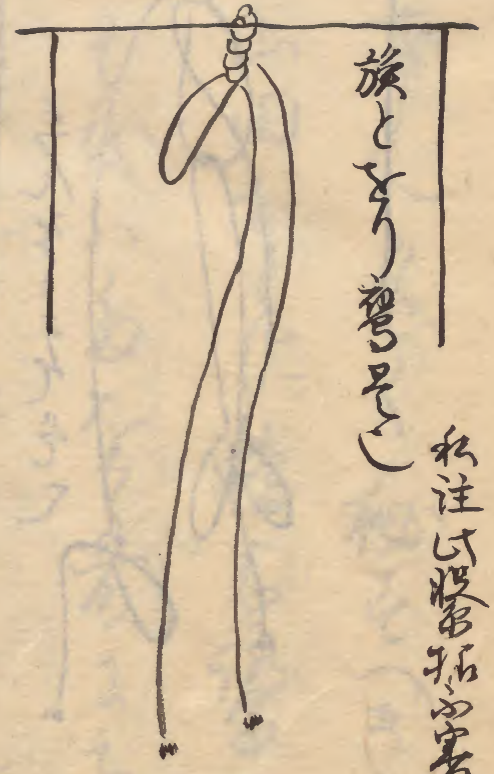
しんじゆりあしづき



たぶら

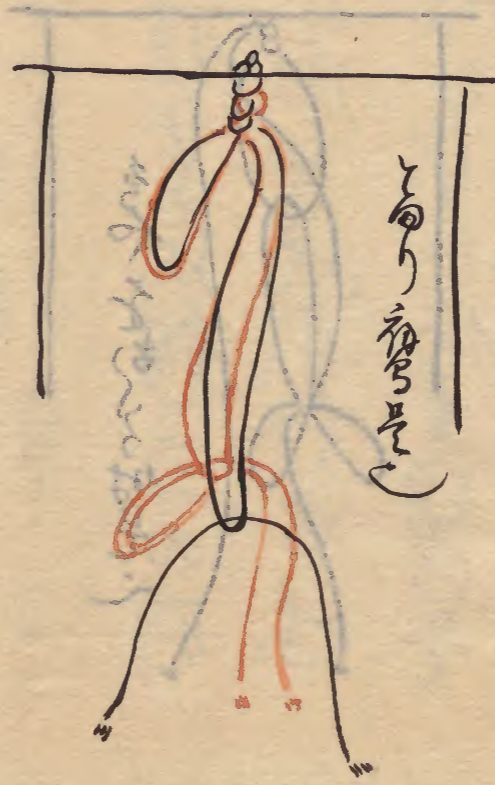


祝言の時

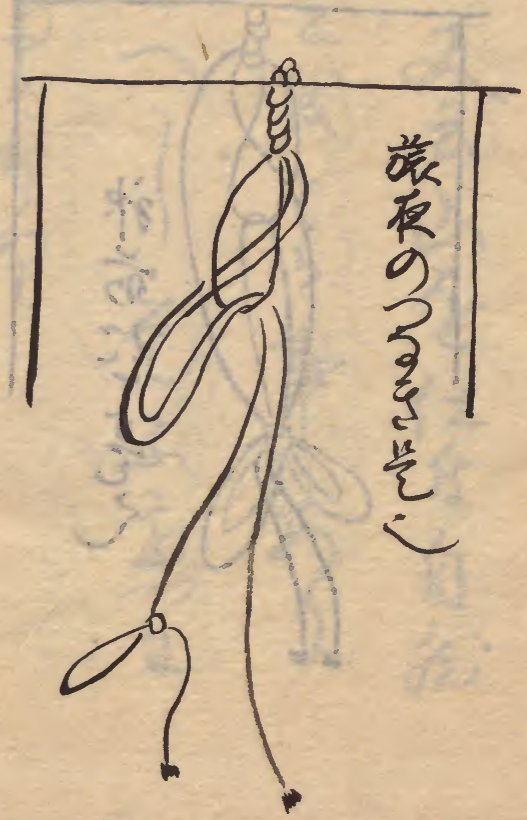


旅とまり

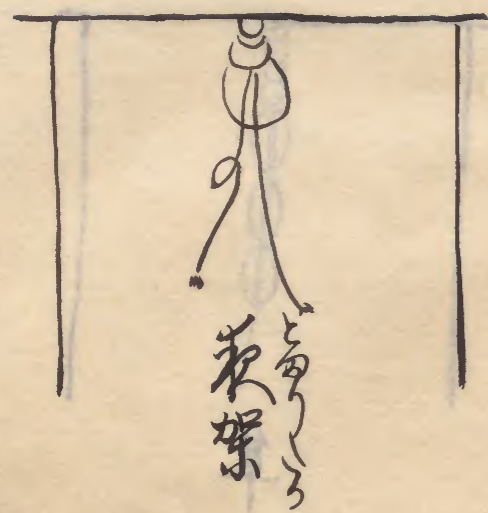
私注のしんじゆりあしづき



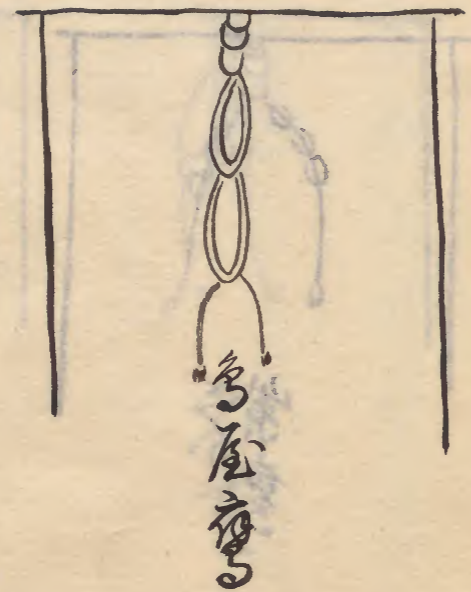
しんじゆりあしづき



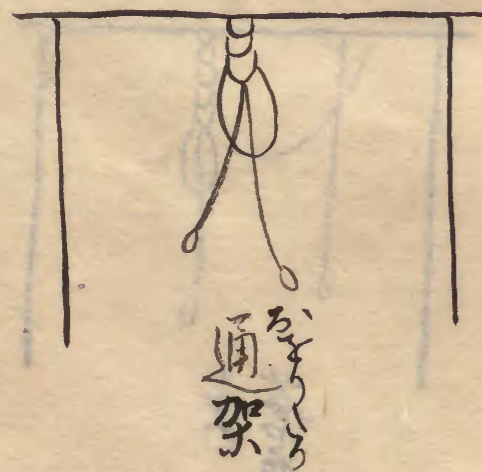
旅のしんじゆりあしづき



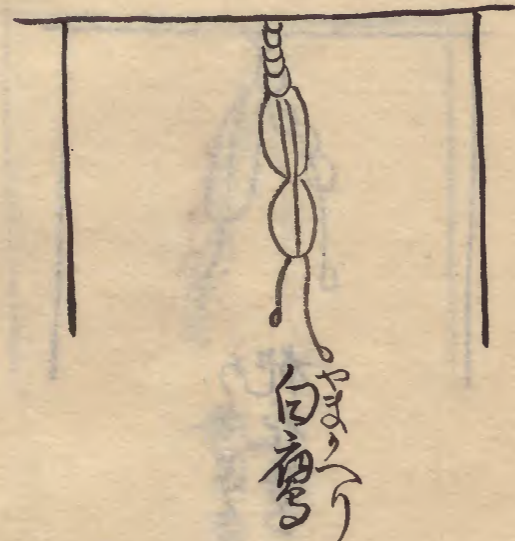
夜架



冬架

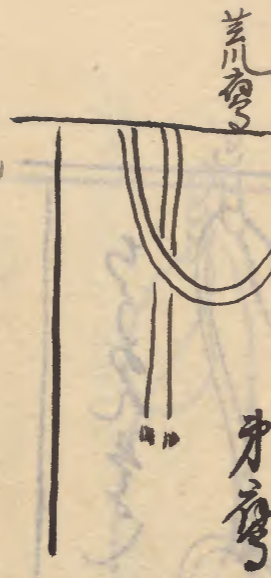


通架



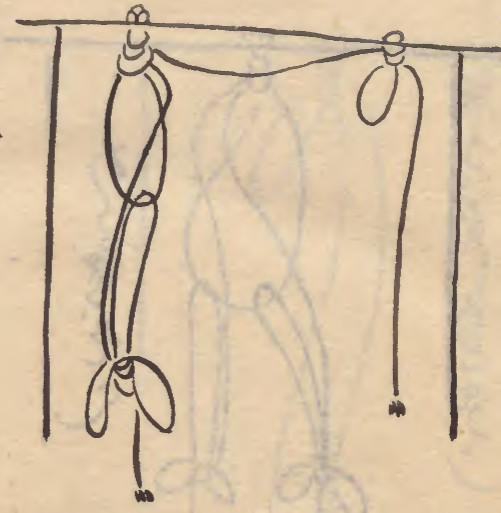
白架

一又別
二分

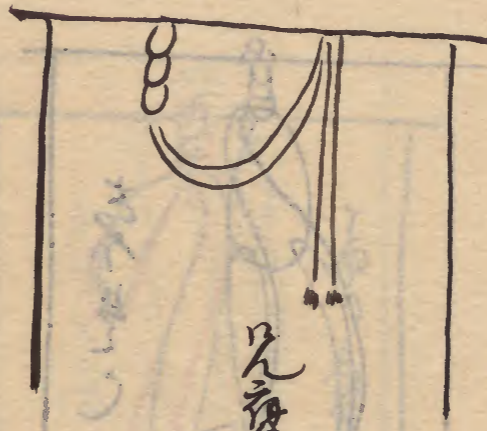


荒架

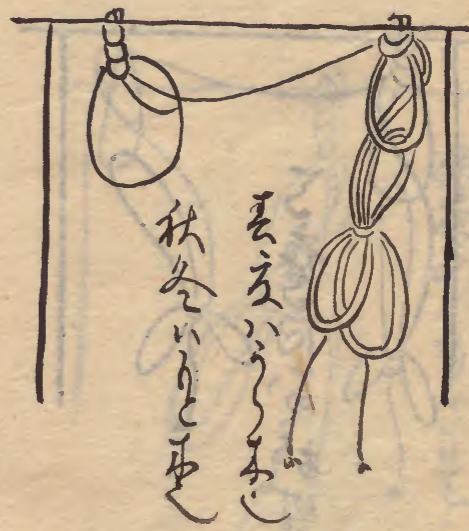
牙架



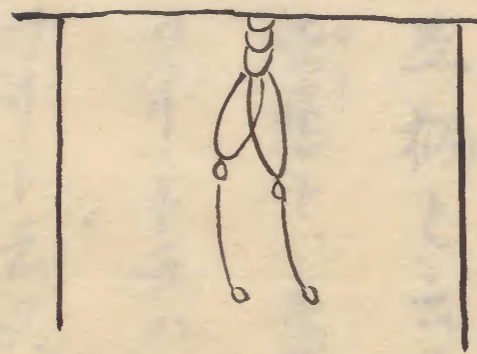
荒架



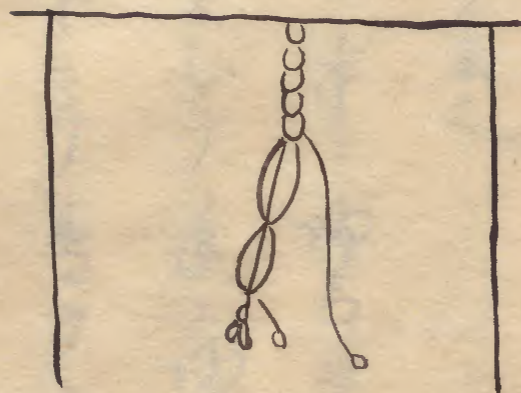
兎架



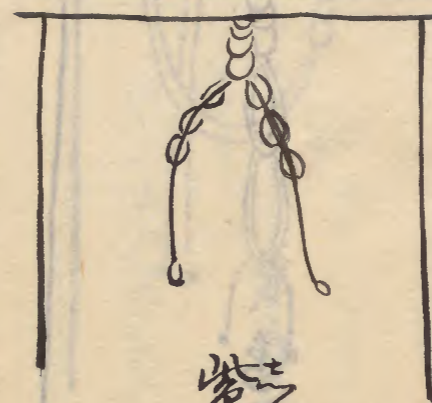
長交いりしり
秋冬いりしり



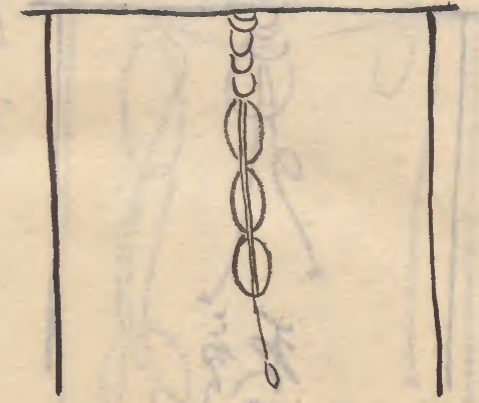
名前



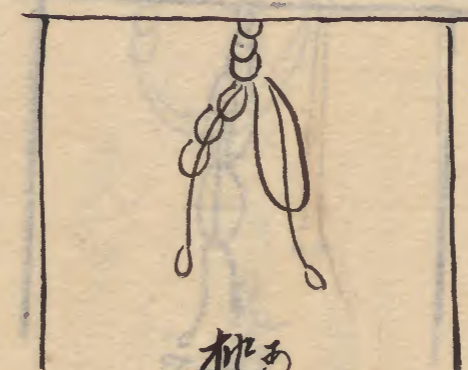
執員にへ



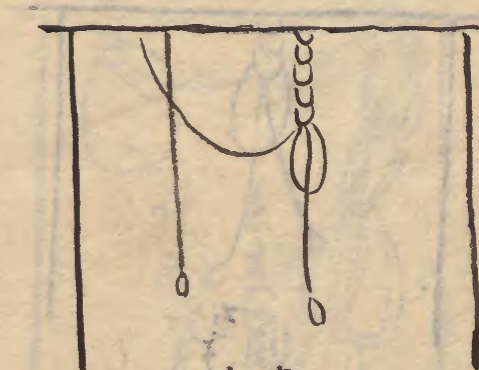
紫あふ



隼



桃花あう



蒼あう

鷹詞之事

一 立柄と云る鳥ノ立タレ記ヲ云之

一 去^{カイ}居トハ鳥ヲトリテその中ニ年ニ由ラシ云又カラ

カイト云ハカニテ鳥ヲトラスニテ年ニ由ラシカラ

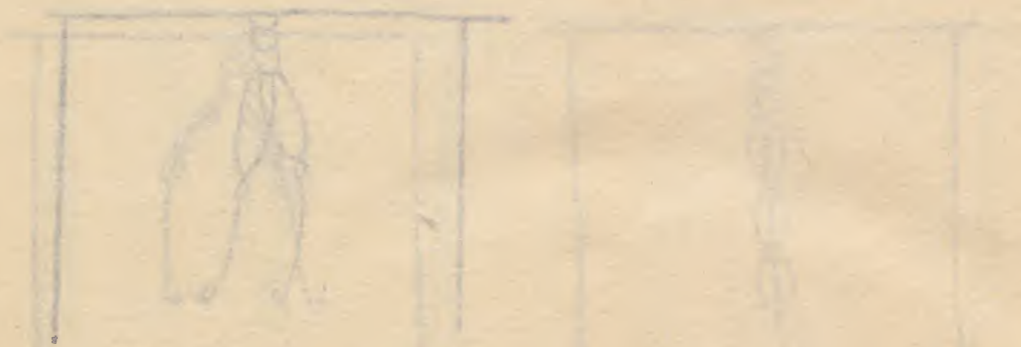
カイト云又タカヘルトモ云又下ニテ鳥ヲトテ年ニ

由ラシカカリト云之是ハ小鳥ニ由ラシキ事

一 忌カイトハ四月八日鳩ノ南へ立ヲトリカイテ

鳥屋へ入ラシラスシカイト云又云平セイノ時モ架ニ

一 梟ノキサニ口餌ヲ少飼ヲモ云ト之



一 鳥物トハ今年ノ鷹ノ如ク飼ノヲ鳥物トモ鳥
トモ云

一 今年ノ鷹巢立テアムリヲトリタムリハアカケトモアカ
ケトハ細鷹ト申也モチニテトリタムリトモアカケ
ト云ヘキ事 籠ルルヘカラサル一歳ノ鷹ヲ黄
鷹ト云ニ歳ノ鷹ヲ鶯鷹ト云ニ歳ヲ青鷹ト
云其外ハ四鳥屋五鳥屋ト云山カ(リ)ニハ鳥屋ト
云子ヲイヌ只カタカ(リ)モロカ(リ)ト云又四鳥屋
ヲモロカタカ(リ)ト云

一 野 曝ト云ハ野ニテ毛ヲシタルヲ野サレト云ナリ
コウカ霜ノフリカ(リ)先ヤウ有

一 ひと草此鶴と云子ハひさ成前あけて春草深か
一 鶴をうりふて鳥屋ハ何之これを一草の鶴と云
一 鶴ハひつと立雲雀ハひあくと立鴨ハヒアと云
一 鶴のおんちハがらくと式ハごとくせ云れん鳥古
からくと云と云

一 鶴之羽けハ年々内もろ羽けハ去ぬり
けけ振口傳

一 目がり此羽と云ふ日嘗て時鷹さくアカリテ
一 鳥ヲセムルし鳥ヲ見失ハシタメニ是逸物と云程又
一 別と説き云々歟

一 山結ノ故去ハ目ヲトラス冬ハ目ヲトル之何モ丸故
ナリ

一 鶴ノ鶴あり逸物ニシクワセ大ニ秘する別是ノ
一 子ヲトリカフニクワセハ及カウ丸ヲアスハ別是
一 根ヲカフヲ小鳥飼トナシ

一 兎鷹大鷹ノヘウナラハタルクワセ小鳥飼ト云テ

ハ別是ノ根ヲ飼ニ

一 鷹ダツルト云ふを見クハリセコ犬飼以下山ニ入テ
待ハシムルヲ云ニ

一 草ヲぬく内と云ふ鳥ヲ追落葉ニタニテス云キ

一 居ホヲトルヲ申ニアカケナトハトリ入ヌモ草ヲヌク
ルニ菓鷹ハツツクヌクルニ但アカケス鷹ニヨラス
心キ、タル鷹ハ早ク其心エヌ物ニ

一 居ホヲ言クトルヲハモリニモツテ居ホヲトルト云ニ
又摘ヲハライテトルト云ニ

一 之キ、ウツラフ、故フ、ヒリフ、何と云々

一 鷹ヲスエアクト云々谷十上トリ落シタルヲ先鷹ヲ
モキヲトシテ言キ所へカサニテカこへ作夏其ノ
スへアクトヤ、或ハ架多屋ナトヨリスエトヲスへ
アクトハ云へカラス

一 ハツ持ト云々多屋ヲおシテ山へワタシ九月九日
南へ立鶴ノ雄ニ丸餅ヲ初カリトハ、

一 シキ餅ヲ門ノソハメテト云々アリ是ハ荒鷹ヲ
其餅時自然クセテモシテヲカレサルヲアリ用ん

一 イケ多ヲ隠メ物ノヲキ餅ヲソソハメテト云々

一 山内ノホリ物トヤリ是ハ山へヲセノホリヲハ
ヤリ花ヲア逸相ノワサ、

一 多ヲアケ落スト云々アリ隼ヲハアテ落スト云々
一 兄鷹大鷹ハアタリ落スト云々

一 ツツヲ結テ十ヶヤルヤウニト云ハ空トリテ落ルヲ
ツツヲムスヒテ十ヶヤルヤウニト云ハ詞大鷹ニカキ
ルヘキ云々

一 コムカウテ親多ヲヒカへテアハスルト云ハ谷ヲコヨリ多

ノ立テ鷹生ノ前ニ飛向ヲハヤク合スレハナケチ
カハハニ其ヲヨキ極ニヒカヘテ合レハ則鷹生ノ
前ニテトルニ其ヲユムカウテ谷底ヨリクルト
先又弥シカラヌヲナカラサシ

一モトリ羽ウツト云るアリ合スル時鷹飛チカヒ
タル時ヤカテタカ飛ナシリテ多クハ其ヲモトリ
羽ウツトアリ是ハ常ニアルハカラス逸物ノワサニ
一ツキ餅スリト云るハ餅ヲワタリサニトリテ又折
アカルる其ヲキ餅スリト云ニクチエトハ志餅

トカクシ

一草ニ見フスル鳥ユルキ草オホハ草草ヲタカ
トウテアカルヲシヘクサト云ニタテ草トリノ下草
フシ草ナトト事アリ

一カルト云るアリ是ハ鷹ノソニスルヲシヤル云
一ウカルト云る是モ鷹ニ云るニ山ヲフミサカルト云
ヘカラスカヤウノヨク心ヲ付キテ

一銃ノ子ヲサスト去る春ナイ鳥ノ時多ニサセシトテ
スルヤウ皆人クシル事ニ此竹ノ月ヲサストモモ同

一 白尾ツクト云るアリ 此竹ニニイテ鶴ノ卵ニツク
ツキテ鶴トモ云ふニカキル但鶴ニヨリテツカサル
モアルと口傳る云々

一 地口山口ト云るアリ 時行幸ナトノ河モ地口ニテ
交或仰スルアリ 大方帯叙ナトセサル人ニモ
作初ノ振アリテ帯叙スルニ 一曰晴トテ装束
ナトモイロクメツラシキスルアリ 是ハ地口ニテ
申詞ウ云ふ

一 山カタツケテト云る 山ヲハ地コサテ川ニワシテ行

一 山カタツケテト云ふ

一 此ニヒテト云る 木コトナトハ鳥ヲ追入テ居本
ヲモタカクトラス タカノ鳥ノアルヲトリニヒテト云ふ

一 大鷹兄鷹ナトノフルニヒ

一 ハムルト云るハトリニリト云コトクニ鳥ヲ追落シテア
ルヲ云是ハ小鷹ノ云也 但大鷹兄鷹ナトニモハ
リニ鳥ヲ付スシテ追落テナトアリ 又又兄鷹
大鷹ニハナ敷トモ云

一 草敷ヲナト云る 追落ニテカタメカ子才千カリク

一 此ヲ一草ニルニ草トト云シ(注付ルニ及サレテ三ノトモ
Pツクル付ル注付ル)

一 ムコトヨメト云テ雄ノツカレヨリ唯ノ立テヨメ
ト云又唯ノツカレヨリ雄ノ立テムコト云シ此入タル

一 鷹ハツカレノ鳥ニテナケハツキテハ行又去也(注付ル)
タツカレノ鳥ヲハ折捨テムコトヨメトナトツキテ

一 行テ鳥トタキスルト云テ鷹ノ忠キフルニイシ
一 モヨリト云テ子リ雲雀ノ事ニ云シ而ニテハトラスル
ト云ニテモヨリト云シ(此而ニテトモ多クトラス物)

一 鳥 鷄トフト云テ鳥ヲタヒシテヨクハトハスシテ水鷄
ノ死振ニ尾ヲタシテヨクク死テ鳥ノ死ト云シ
鳥鷄ニ
云但百首

一 百鳥屋カハハ右ニスルトヨノツ子ニ付ルテ不祝ヲ
シラス御物ノ付右ニスルテヨリ百鳥屋ノ鳥ニアラス

一 巢ニワリト云テ鳥ハタテフミ候テアタリノ居本山
ナト(注付ル)テヤカニ巢ニ付テラスニワリト云シ

一 巢山ゆリト云テハヤ巢ヲ立テをク隠タレ山へ候テ
又巢ノアタリへゆ来テアタリソレテ巢山ゆリト云シ

又巢ノ子々種々アリ、枯木ツキナトハ巢ヨリ

立テツノアタリへ海リト云

一ノリモトハ巢鷹ノ未あツキカイヤワリテ

一綿ノコトク白キモニテ云云、少毛オヒスハ毛サキニ

白クモツツ花毛ト云、其ヲ落スツツ花スリト云

一又女コカシヨニ後ルシムラコト云

一架へアクルト云、鶯鶯ノ時倒式達ヲニキ菟ノ皮

ヲニキニ大キニ成テニツ斗見、時カコへ架ヲサシ云

一子アリソレヲ架へアクルト云

一ニサコ卵ヲツカウト云、若くは追落シタル多ク空ニ

ニツルサレテ鷹ノ子々ヲツカウト云

一平ハオシラスルト云、初テ多ニアワセタルツ

平ハオシラスルト云、アワセタル云トノツ平ハオシトハイス

一トヒリ山宿山ト申、鳴トリナトノ時物有ノ在、おへ行テ

トヒリテ鷹ヲツカウ、子々ソレヲ云、トヒリ侍ト云モ

曰、是レ

一鳴鳥キハスへ多き云、(曉山へ行テ鳥ノ鳴ヲ

アスへ、秋ノホノノト明ニタカ立ルヲトイ鳥、初ト云)

一 一之鷹ト云るヲ鶴ト云は字ヲハシ鷹ト曰ふハシ鷹ト
云ニ説く多し是ハハイ鷹ト云字ニテ候ヲハシ鷹ト云ニ
ハイ鷹ヲハシタカト云ニハアラスハシ鷹ト云ヲハ鷹ノ
惣名ト心得ヘシ事ニモ實際シハカニソフルハシ鷹
ノ十トヨニ候大カタノ事ニ又ハシ鷹ノ尾ヲサノ上ニ坐
露ハ鳴ス、虫ノ海ニケリナト、ヨニ候ハ是ハハ鷹ヲ
るト字假也

一 サ、ラアハセト云る是ハ荒鷹ニハシテトリカウト
テ合タルヲサ、ラ合トテ

一 鷹一レシト云文字ニハ一聯ト申はレシ文字ヲ一モト
ニモト、云モトノ字ニ是ハ凡秘する人ノスル事
一 犬ヲハ一形ト云一ヒキトハイハス旧記ナト皆聲レ鷹
從レ犬ト云ト犬ヲ一ヒキトハ不申

一 狩ツメノ鶴是ハ田ヲカリ残シテアル稲ニウツラノ
ヲモヲ云ニソレヲカリツメノ鶴ト云ニ

一 アケ鶴ト云る是ハウツカケニハシテ鶴ヲタテ、トテ
スル事ソレヲ云ニ別ぬるナキカヤウノ事トモ多ク
トアラハシト歟

一 スエカリルト云るハ多ノ有草へ奪リ居カケテ犬ヲ
入立ルヲ云云

一 ツキタツルト云るハ荒奪ヲナツケテ始テヲリリキ
タツルト云云

一 モヤスキト云ハ早ク居木ニタテラスツカル、ツ云
又耳カクキト云ハキトヲケトモ不後ヲ云云

一 オモジルト云ハ奪生ヲ見知、不知人ニ面ヲ合ル
トテ聲ヲ見名付カサルヲ云云、又キラメクトトテモ

一 キロト見奪ヲスシ云云

一 飛ナラフト云るハ奪多ニ追付テ双飛ヲ云云

一 祓トコリトハ多ヲ追ステ、山ノ根ニ奪トセルヲ云又
追切ト云モ一羽エテ打捨タルヲ申云

一 見奪ト云ハ犬モ人モ立サルニ奪多ヲ見付テおトス
ル所犬ヲ犬飼ニトラセテ奪ヲヤレハトツ立テ、おシ
云云、詳細、山カヘリナトテ奪ニスル云云

一 奪車ト云るハ奪タル多ヲモカスメソノ、年ニスへ
テ持来シト云云

一 死リ又カスト云ハ死トメスニカスヲ云又死ホムラカストモ

云同事也

一 一ト、鳴キト云ハツカレニテ犬千カリカサノソキ合テ
ジリクト鷹ノ鳴シ云

一 アタリオトスト云ハ多ク空ニシテ高ハ多クオツルソノ時
鷹架ノウキテアカリ落カ、リテ死シ云々集
ニハアテシトスト云

一 犬ノ从ヲツムルト云ハ犬千カリナルニ任テ犬ノ从ニツメ
ヨルヲ云

一 鳥イカダト云る他オトニテ多ク死テ多クノ上ニ鷹ノ

居ヲトリ袋ト云

一 鳥一タキトハ多ク立テ鷹アレコレノ鳥ヲトラント
スルヲ鳥一タキト云トトリ入サル鷹振舞

一 スエアクルト云る山ヲ言ク次方ニ踏アカルヲ云々又鳥
ツトリタルヲクワセシテスエアケルオト飼ソレシモ云

一 餅袋ニシキ餅ヲサス事一犬鷹ニハ雄兎鷹ニハ雌ニハ
雄ヲサスオハトクサモヲ鷹生ノ方ニ添ヤリニサスニ唯ニハ
トクサモナシカレトモ一為同心

一 餅袋ノ鹿及ノ事 古ハ鷹ヲシカクトマラサル也

祝言ニ結タレ由有百首小鷹ニ六卷不似合ニヨリテ
叶結ヲスヘキト古抄ニヘタリ

一 鷹ヲ右ニ居ルト云テ人ノ申ハ百首を飼タレテ右ニ立
ルト不知不祝野幸行シ何右右四モトツ居レ

ソノ時御輿ノ下ニ養鷹生ハ左ニ居ル如常右ノ鷹
生ハ右ニ居ルニ然時ハイリクを食テ元沙汰ニ

一 白鷹昔ハ左ノ人ノ批判ノ大差ニ如女房居サセ
流由申^傳タリ是ヲ皆人女房ノ鷹ヲ流スヤウ
アリナトト

一 大鷹ハ兄鷹ノ妻鷹ニ兄鷹ノ妻鷹ニ鵲^ツ 兄鷹ノ

妻鷹ニ隼大小是ハ大カ妻鷹ニ雀^{サシ}ハ鵲サシハ
兄鷹サシハトトイツレモ唯雄同前ニ赤サシハスソコ

ナト云アリ是ハシカト不仁鷹ナレハ先女学

一 白鷹日ナノ鷹ニアラサレ^サル鳥鷹ノ下ニ有沙汰

サシハモ高鷹ヨリ流ルノ由申傳リ是モ巢鷹ノ沙汰
刺羽
アルハカラス

一 原鶴人ノ方ヘ去レ時一ツ不可去ソノ子細ハ大ワサヲ

サセテハ昔ハ七日鷹ヲヤスムルトアリシカレ時ハサヤウニハ

有鳥敷るく只原をくト斗あかト上モカクヘキ
一ツトモカキレハニツモアルヘキ哉ノ鳥努く一ツトモカキレ
テ只原ノ原をくト斗カクヘキ
モトリ候時人ニ雜談くカヤウノ事ハ又物語ニテ
不申由人々ト申テテ語ノ由

一 白ノ之所ア夕候ハ雪白青白七所白三山白

之ホ赤鷹 是ハ白ニテ 白ノ見所口傳る事 目ノ色白
餅ノ目ノ如色ラニニ箸凡羽筋
羽ウラクモテ艶ノ如足

一 小鳥カイト云アリ是ハ雉ノ原なるヲハクワセラ小鳥

飼スル小鳥飼ト云事サシタレ度ニテハナケレトモ
秘シテ口傳スル也

一 因物ヲトラスレト云ト又ラトトリトハ別く自然
分別セヌ人モ多分候ハ物而乱れト云度ハ山ニ
テモアル事是モ秘スル也

一 忌日度 乙未 戊午 癸酉 以三ケ日
又吉日度 寅 申 戌 依秘人不知

一 十三尾此事 屋々尾と為るハ此竹のうへ
りさるりておひさるハ屋々尾ハ屋々尾の鷹

鷹をくーの尾もふまうん尾くーのおと
 一 子うをへう寸あより尾のさう十二の尾は
 又あのみあすーしをハ鴉尾といふ也ーいふ
 一 あまをハ鴉と成といふ十二のおうふのよさ
 一 ふあうん鴉ーおといふ也ー



基規

